

令和2年度 大阪府立大阪北視覚支援学校 第2回学校運営協議会 実施報告書

日時	令和3年2月24日（水）9時30分～11時00分		
場所	大阪府立大阪北視覚支援学校 同窓会館		
出席者	委員	[出席] 猪又則広、亀甲孝一、佐々木一男、柳川敏美、山根純子、山本利和 [欠席]	
	事務局	川副博史（校長）、内田紘允（教頭）、太田淳一郎（教頭） 山本雅史（事務長）、林幹夫（首席）、辰巳純子（首席）	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度第3回学校協議会 レジメ</li> <li>・令和2年度学校経営計画及び学校評価</li> <li>・令和3年度学校経営計画及び学校評価</li> </ul>		
協議 要旨		議題	
		協議結果(○)・意見の概要(・)	
	(1)	学校教育自己診断について	回収率は幼児児童生徒71%、保護者81%、教職員91%で、教職員の提出率が前回より大幅に上昇。 委員より、教職員も学校運営にかかわるのが当たり前なので、未提出者の思いをどう吸い上げるかが重要であるという意見が出された。
	(2)	学校経営計画の進捗状況について	今年度はコロナ禍の影響で達成できなかったものもあった。 学部間で、教務主任会、教科会を行い、連携強化ができた。寄宿舎での生活では、新型コロナへの徹底した感染症対策を行った。センター的機能についても、7月まで実施できなかったが情報発信や理解啓発に努め、来年度の新しい取り組みへの一歩を踏み出している。専門性については校内点字講習会を2つのレベルに分けて行い、ライトハウスの歩行訓練研修にも1名派遣した。時間外労働については、前年度に比べ24%減少した。コロナ対策に時間を割きながら時間外労働時間を減らしたことに對して、委員から高い評価を得た。
(3)	令和3年度の学校経営計画について（校長より説明）	令和2年度の評価をもとに、より具体的な事項について触れて作成した。例えばICTの活用や、研究授業も主体的、対話的で深い学びをテーマにするほか、保護者を対象としたあんま、はりの体験会の実施など、具体的に示している。新たに大阪府における視覚障がい教育の将来構想を考えるために、将来構想委員会を組織して全校的に取り組む予定をしている。委員より、大阪南視覚支援学校との連携強化などの意見が出された。専門性講座の点字、歩行にICTを加えた。いんより、ICTに関して、特に点字使用者へのデータの渡し方では、大学などで現在行われている情報提供の取り組みが必要ではないかという意見が出された。また、視覚支援学校在学中のどの段階で、どのような専門的	

		<p>な指導、特に文章を組み立てていくための指導が必要であるかを明確にして実践していくことが必要ではないかという意見も出された。防災訓練では、保護者引き渡しを含む保護者や地域と連携したものを考えていく。次年度、本校主管で行われる全国弁論大会などへの地域住民の参加が可能かどうかという質問も出された。</p> <p>すべての項目について承認を得ることができた。</p>
備考		

次回の会議日程

日時 令和3年7月初旬

場所 大阪府立大阪北視覚支援学校 同窓会館